

平成26年 9月

大森眞澄 学位論文審査要旨

主 査 南 前 恵 子
副主査 松 浦 治 代
同 吉 岡 伸 一

主論文

児童・思春期病棟看護師と小学校教諭の情動知性と心の健康及びエゴ・レジリエンスの比較

(著者：大森眞澄、吉岡伸一)

平成26年 日本看護福祉学会誌 19巻 1頁～13頁

参考論文

1. 新卒看護師の早期離職と再就職にむけての体験

(著者：大森眞澄、長田京子、福間美紀、廣野祥子、森山美香、江藤剛)

平成24年 島根大学医学部紀要 35巻 1頁～7頁

学 位 論 文 要 旨

児童・思春期病棟看護師と小学校教諭の情動知性と心の健康及びエゴ・レジリエンスの比較

医療や教育の現場、特に子どもを守るサービス業では、否が応でも感情労働を強いられ、ストレスに曝されやすい。また、情動知性やレジリエンスは、メンタルヘルスのうえでの重要な役割をもつと言われ、その育成や活用方略の検討は重要な課題である。しかし、情動知性やレジリエンスの開発にむけたトレーニングは十分とは言えない。そこで、病気や障害をもつ子どもと関わる看護師と小学校教諭の情動知性の育成方略を考察したいと考え、児童・思春期病棟看護師と小学校教諭の情動知性と心の健康及びエゴ・レジリエンスの比較をすることを目的とした。

方 法

S 地方にある児童・思春期精神科及び重度心身障害をもつ児をケアする病棟看護師（以下、看護師）と小学校教諭計 191 名を対象に、無記名自記式質問紙調査を実施した。調査内容は、「年齢」、「性別」、専門職としての「経験年数」、「困難の内容とサポート」などと 21 項目版情動知性尺度 (Emotional Intelligence Scale:EQS)、12 項目版精神健康調査票 (GHQ) 及び 14 項目版エゴ・レジリエンス尺度 (Ego Resilience Scale : ERS) を用いた。分析方法は、看護師と小学校教諭の年齢、職務経験年数の平均値の比較には t 検定を用い、EQS、GHQ、ERS の平均の比較には Mann-Whitney の U 検定を用いた。また、EQS、GHQ、ERS の相関は Spearman の相関係数の検定で行い、有意水準は 5% とした。

結 果

看護師 49 名（男性 4 名 女性 45 名）と小学校教諭 64 名（男性 25 名 女性 39 名）の計 113 名から回答が得られた。看護師の年齢は、 39.5 ± 10.0 歳、小学校教諭の年齢は 46.4 ± 8.4 歳であった。専門職としての経験年数は看護師が 14.9 ± 8.9 年、小学校教諭が 22.6 ± 8.5 年で、小学校教諭の方が有意に長かった。また、看護師、小学校教諭ともに 9 割の者が子どもと関わる上で困難があると回答し、その内容は、「保護者対応」「心の健康」などであった。困難な時のサポートは、ともに職場のサポートであった。

EQS を構成する「自己対応」、「対人対応」、「状況対応」のいずれも、小学校教諭の方が、看護師に比べて有意に高かったが、「自己対応」領域の「自己洞察」と「対人対応」領域の

「愛他心」では両群間で有意差がみられなかった。また、ERSにおいても小学校教諭の方が有意に高かったが、GHQでは、看護師と小学校教諭では有意な差はみられなかった。

看護師の経験年数及び年齢とEQS総計は、有意な正の相関(それぞれ $r = 0.421$ 、 $r = 0.404$)がみられた。看護師のEQSの3領域について、年齢及び経験年数ともに、「対人対応」と「状況対応」の間に有意な正の相関がみられた。しかし、小学校教諭の場合、年齢及び経験年数ともに、EQS総計及びEQSの3領域のいずれとの間にも有意な相関はみられなかった。GHQとERSについて、看護師、小学校教諭ともに年齢及び経験年数と関連はみられなかった。ERSとEQSとの関連性について、看護師では、ERSとEQS総計($r = 0.502$)、「対人対応」($r = 0.464$)、「状況対応」($r = 0.545$)と有意な正の相関がみられ、小学校教諭もERSとEQS総計($r = 0.442$)、「対人対応」($r = 0.322$)、「状況対応」($r = 0.525$)で有意な正の相関がみられた。

考 察

看護師と小学校教諭はどちらも困難な出来事の経験は多く、職場からのサポートを得ていた。しかし、EQSの3領域とその対応因子及びエゴ・レジリエンスでは、小学校教諭の方がいずれも、有意に高い値を示した。特に、「状況対応」の領域では、小学校教諭が有意に高い値を示した。小学校教諭は、困難な状況を多く経験することで、情動知性は高く保たれ、困難な状況の経験が情動知性にプラスに影響していると考えられる。一方、看護師の情動知性とエゴ・レジリエンスは、小学校教諭より高くなかった。また、看護師の情動知性は、専門職としての経験年数と有意な相関がみられたが、小学校教諭は、経験年数との相関はみられなかった。看護師の情動知性の育成には、経験年数が関係し、継続的な教育やトレーニング、臨床での体験を検討する場が必要であることが示唆された。一方、小学校教諭では、経験年数と情動知性には相関がなく、専門職としての経験年数より、個人のモチベーションや基礎教育などが情動知性の育成に重要でないかと考えられる。

結 論

小学校教諭は看護師に比べて、EQS及びERSが有意に高かったが、経験年数との関連はみられなかった。しかし、看護師の経験年数とEQSの「対人対応」、「状況対応」では正の相関がみられた。看護師の情動知性の育成には、体験の意味づけが必要で、個人的資源と仕事上の資源を活用した支援体制の構築が求められる。